

報道各社御中 ← 環境省広報室

兵庫県での高病原性鳥インフルエンザ発生に伴う野鳥緊急調査チーム
による調査の結果について（H29.1.20 19：30）

兵庫県西宮市において12月28日に回収されたキンクロハジロ1羽から高病原性鳥インフルエンザウイルスが検出されたことを受けて、また伊丹市において1月13日～18日に回収されたコブハクチョウ（飼育下）の死亡個体14羽（No.184～188、190、196～199、201～204）からA型鳥インフルエンザウイルスが検出（うちNo.184は高病原性鳥インフルエンザが確定。そのほかは確定検査中。）されたことを受けて、1月18日（水）から1月20日（金）に野鳥緊急調査チームを現地に派遣し、現地の野鳥の生息状況等の調査を実施しましたので、以下のとおり結果をお知らせします。

1 調査結果

○1月18日から20日にかけて、兵庫県西宮市及び伊丹市の発生地点周辺半径10km圏の野鳥監視重点区域内（大阪府を含む）の、渡り鳥の飛来地等の計18地点において生息状況調査、死亡野鳥調査等を実施。野鳥の大量死は認められなかった。

○調査チーム派遣期間内に野鳥監視重点区域内において兵庫県が回収した野鳥死亡個体5体について、1体が簡易検査陽性であり確定検査中である。また4体が簡易検査陰性であり、現在、国立環境研究所にて遺伝子検査中である。なお、大阪府による検査対象となる死亡個体の回収等の異常は確認されなかった。

（参考）

- 観察された鳥類 42種
- うち、リスク種1 1種（キンクロハジロ）
- リスク種2 9種（ホシハジロ、オオバン、スズガモ等）
- リスク種3 15種（ヒドリガモ、コガモ、カルガモ等）
- 兵庫県により回収（18日）された死亡個体
- リスク種1 コリカモメ 1体（No.208 確定検査中）
- その他の種 ソウシチョウ 4体（遺伝子検査中）

*本調査結果は暫定値です。

*リスク種とは：「野鳥における高病原性鳥インフルエンザに係る対応技術マニュアル」において、感染して死亡しやすい種を中心に設定

2 今後の対応

野鳥監視重点区域において、兵庫県および大阪府と連携し、引き続き野鳥の監視を実施。

※ 環境省はホームページで野鳥における高病原性鳥インフルエンザに関する様々な情報を提供しています。（http://www.env.go.jp/nature/dobutsu/bird_flu/）

平成29年1月20日（金）

自然環境局野生生物課鳥獣保護管理室

直 通：03-5521-8285

代 表：03-3581-3351

企 画 官：東岡 礼治（内線6475）

鳥獣専門官：根上 泰子（内線6676）

自然環境局総務課動物愛護管理室

代 表：03-3581-3351

直 通：03-5521-8331

室 長：則久 雅司（内線6651）

室長補佐：徳田 裕之（内線6652）

近畿地方環境事務所野生生物課

直 通：06-4792-0706

課 長：鑪 雅哉

課長補佐：深田 富士雄